



福祉と住環境を考える会

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC・ITM 棟 11F Iビル
TEL 06-6614-6800 ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp>

2010年6月
第78号

特定非営利活動法人
ふくてっく

新しい市民活動のあり方

〜CSOとは〜

ふくてっく5月学習会

(講師) 山田裕子氏

を踏まえて

ふくてっくは平成5年に
発足して間もなく17年にな
ろうとしている。

その生い立ちを振り返る
と、設立当初は本當によちよ
ち歩きで、大阪市社協やボラ
ンティア情報センターの、今
では考えられないようなバ
ックアップがあつて始めて
成り立っていたと言つて過
言ではない。しつかりした行
政側のお膳立てがあつて、そ
の枠の中に育まれるように、
市民参加が促進された時代
であつた。

しかし、これからの時代に
おいては、行政は一步も二歩
も下がつて後方支援に回る
中で、市民が本来の力を発揮
して自らが社会を律するこ
とが求められている。これま
でのような受動的市民参加

はもはや通用しなくなつて
いるのだ。

NPO法の制定は、そのよ
うに自立した市民社会の成
熟を基本前提としていた。

NPOの社会的役割は、行
政のお膳立てを待たず、元来
は行政が行つてきた社会的
サービスに伴う広いコンセ
ンサスの取りまとめを自ら
が担い、また企業が取り組む
見込みのない非収益分野に
も自発的に取り組んで、社会
のニーズに答える【財・サー
ビスの提供機能】と、制度改
革や政策提言など、社会的な
問題解決にも一石を投ずる
【ボイス機能】にある。

NPOは、個人にとつては
自己実現の機会になるが、こ
れはややもすると「自分のや
りたいことをやつて満足す
ること」と勘違いされている。
楽しみの場を提供するのが
NPOではない。社会を改革
するのがNPOのはずだ。誤
つた自己実現願望は、NPO

の発展を阻害している。
原点はあくまでも責任あ
る社会参加なのである。

さて、17年を経たふくて
っくの現状はいかがであら
うか。

NPO法人化に際して、上
記のような覚悟はあつたか。
そしてその信念を貫いてい
るか。

問題はミッションを如何
に遂行するかにあるのでは
ない。現実の社会に対峙して
いかなるミッションを設定
するかにある。言い換えれば、

問題を如何に解くのかでは
なく、何を問題とするかだ。
現在のふくてっくには、問題
が設定されていない。あるい
はかつての問題がそのまま
に固定化されている。そこが
行き詰まりの要因となつて
いるのではないか。社会が求
めるところは既に遠い所に
ある。

次に、コミュニティビジネ
スとよく叫ばれるが、それは
何らかの地域共同体とのつ
ながり、明言すれば利害関係
をどう創れるかということ

に触れられていない。コミュ
ニティである以上、そこには
どろどろした愛憎があり、ビ
ジネスである以上、非情なり
スクと欲が欠かせない。もは
やボランティアごつこの市
民活動は立ち入る隙がない
のだ。

異なる立場の市民が互い
にきちんと対話して合意を
生み出せるか。

異なるセクター(1政府・
行政、2企業、3市民)の壁
を超えて人々をつなぎ、新た
な価値、新たな事業を創造し
てゆく革新的な流れを起こ
せるか。

これからの市民活動に求
められているものはまさに、
その様な「運動」である。

営利・非営利の問題では
ない。市民のコントロール下
に社会を創る、すなわち本當
の意味の民主主義の実現で
ある。

ふくてっくに代表される
多くのボランティア団体・
市民活動団体のこれまでの
成長の緩やかな延長線上に、
それはないだろう。

中北 清



5月1日(土)学習会の風景

私ども「ふくてっく」は多くの木材を持ち込み、こどもたちに思い思いの作品を作ってもらいました。「ノコギリ」「カナヅチ」「接着ボンド」などをこどもたちに使ってもらい私たちは電動ドリル、電動イトノコギリ、電動帯ノコギリ等細かい作業や円形カットなど、こどもたちの要

望にに応じ対応し最後の仕上げを応援しました。サンブルを展示しこどもたちはそれを見て更に新しいデザインを考案し楽しい自由木工を一日中汗をかきながら頑張りました。おかげでとってもユニークで奇抜な作品がたくさんできあがり、こどもたちはうれしそうに持ち帰りました。

大阪市長主催
「こどもカーニバル」

木工教室



無料です
NPO法人
ふくてっく



ふくてっくのテント風景

更に当日は市内小学校のこどもたちによる「プラスチック」や「消防署による3メートルもの高さにもなるクレーン車の試乗」や「本物そっくりのミニ蒸気機関車の実演試乗」など、一日中楽しく遊べる会場となり多くのこどもたちが楽しんだことと思います。

西川 朋生



ちょっとお疲れかな



なにがいいかな？

参加児童数 約70名
保護者 約20名
スタッフ 9名

ふくちゃんが帰ってきた！！



ふくちゃん
バリアフリー屋より

萩野光



第33回東大阪市民ふれあい祭り

キッズ木工ランド

5月9日(日)、第33回東大阪市民ふれあい祭りが花園中央公園会場で開催され、「ふくてっく」や東大阪部会の活動を広く市民の方々に知っていただくべく初参加いたしました。

前日まで悪天候が続いていましたが、当日はスッキリ晴れあがり、朝から東大阪市の市民が続々と詰めかけ大変な賑わいでした。

さて、「ふくてっく」のテントでは活動内容を紹介したパネルが展示され、受付にはふくてっく活動紹介チラシが置かれ、テントの中では木工部の協力で「キッズ木工ランド」と命名し自然木のふくろう、竹材の鉄棒人形遊び、トラの干支のメモ帳付ペン立て、間伐材のペンダントなど楽しい木工製品が用意され、開始早々から、ちびっ子が大勢つめかけお世話をする木工部の面々(平均年齢七十才)も大忙しで汗だくでした。

後藤 秀樹



当日の作品(自然木・間伐材・竹材)

こどもさんは思い思いに自分の作品に色付けをして、オリジナリティを發揮、満足そうに作品を持ち帰りました。木工メンバーも休むまもなくさすがにグロッキー気味・・・



東大阪建築士会に所属する東大阪部会のメンバーは、他の会場でベニヤ・ビニールを使ったシェルトターの展示や、フライドポテトの販売で大忙しでした。



ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育んでいます。

キーワードは「生活者の視点、当たり前感覚」です。

福祉用具部会

お洒落で便利な福祉用具を考えています。

研修部会

会員の「学びたい！」思いを受けて研修会を企画しています。

東大阪部会

活動地域を東大阪市に限定し、住環境改善に取り組んでいます。東大阪市に在住・勤務している方を中心とし地域支援活動を行っている4人以上のグループ(自治会やPTA・介護支援専門員等)を対象に、「自宅や職場まで出向いての「出前学習会」を実施しています。」

1回90分程度
学習内容や日時をご相談に応じます。
ご連絡ください。

木工部会

地域や各グループの要請により子どもたちや老人の方々に木をつかって何かをつくる為の支援をしています。**木工教室など、ご要望があれば伺います。**
ご連絡ください。

住宅改修部会

経験豊かな建築士と施工スタッフが、責任ある仕事を福祉マインドで取り組んでいます。

こむねつと部会

コミュニティビジネス手法によって、社会貢献と自己実現を図ろうとする集いです。

** ふくてっくのプロフィール **

NPO法人ふくてっくは、H5年7月に「福祉機器・住宅研究会」として設立。当初は有償ボランティアとして大阪市ボランティア情報センターに寄せられた相談事に会員の出来る範囲でボランティアとして参加し福祉活動をしてきました。

福祉機器の選定・補助具の製作がメインの活動でしたが、住宅改修に関する勉強会等を開催し、徐々に住宅改修が活動のメインとなっていきました。その後、「福祉と住環境を考える会」(H9年7月～愛称「ふくてっく」)と改め、活動も木に親しむ木工部や福祉用具部会、研修部会など・・・幅広く展開してきました。

H14年にはNPO法人格を取得し、さらなる活動への展開を模索し、今では行政協働、第三者評価機関等、信用が伴う事業を展開するようになりました。近年の活動では、H15年からのコミュニティビジネスへの展開は大きくふくてっくの活動領域を広げ、特にH18年からの東大阪市高齢者・重度身体障害者住宅改修費助成事業の適正検証活動、H20年からの建物定期報告活動も実施しています。

ふくてっく活動紹介チラシ



本日参加の皆様大変お疲れ様でした。事故もなく作品も完売に近い売れ行き大成功・・・

野田の家(ななとこ庵)

中北清

野田の街

一般に街おこしというといわゆるカリスマ仕掛け人が登場し、有力なテナントを誘致し・・・なんてことをよく聞く。でもそこには大きな落とし穴があるようだ。

地の人はいつも間にか押しやられ、街はよそ者に占拠される。それまでの文化はどこへやら。

盛んになるのは外来客の増加と商売の繁盛ばかりで、生活の街が置き去りにされる。

そうしてブームが去ったら、よそ者はさつきと引き上げ、街は元の黙阿弥以下になってしまふ。

街おこしは地の人の手で！ 当たり前前のことである。

その点、この町は本物のようだ。豊かなコミュニティが息づいている。



百縁笑店街でにぎわう野田新橋商店街



野田の商店街を歩いています。酒屋の店先に気になった傘立て「雨の日のカサ休め」とあります。雨の日がなばつてくれるカサにちよつと一休みの場を・・・しゃれてるじゃありませんか。

野田の町歩き

好天に恵まれた5月1日、福島区未来わがまち会議の鈴木和夫氏の案内でななとこあるきを楽しんだ。七ヶ所の地蔵さんを巡ってお参りをうると、願い事が叶うという、ありがたいツアーである。

戦災を免れた町並みは昭和初期の下町風情を残している。なにより、行く先々で気さくに話しかけるお年寄りたちの笑顔がいい。



銅板や石をふんだんに使用した立派な民家がよく保全されている。



野田の町歩きツアー参加者



なにか不思議な地藏さん

野田の家

(ななとこ庵)とは

野田の家は、既往のデイサービスでもなければ、いわゆる小規模多機能でもない。と言っても単なるサロンでもない(認知症デイやお泊まりなど、高度な対応機能をもつ)柔軟な構えで、地域のニーズを何でも受け入れながら、地域が求める共生拠点の新たな取組を探るという先駆的取組です。

NPO法人 樹瀬川 雅和氏が取り組まれる新たななる試みです。



野田の家の正面

野田の家の近況

ツアーの終着は、野田の改装現場。なにしろ、お住まいの和田さんでさえ建築年次がわからないという建物。工事は予期せぬ事態が次々発生。当初の予定よりかなり遅れているが6月中旬には完成しそうです。



座敷の床下地は、結局全面やりなおし。中央はお茶の炉があつたなごり



ウッドデッキが完成車いす用のスロープも

会員コラム

砂川恵理歌

Smile Seed Project

昨年12月の学習会でライブを行ってくれたので、会員の中ではご存じの方も多しと思えますが、砂川恵理歌は沖縄宮古島出身のアーティストです。

今回、少し紙面を頂いて、彼女の地道な活動や魅力友人として少しでもお伝えできればと思います。

まずは現在、彼女の活動の中心であるSmile Seed Project.

ガン末期患者の遺した一言に何人も思いが重なって完成した「一粒の種」という歌を、少しでも多くの方に届けたいと始まった出前チャリティライブです。全国の福祉施設、病院、学校などを中心にこの記事の時点で既に150回を越え、今なお、依頼は絶えません。これは彼女の活動の記録であると同時に、

このプロジェクトを受け入れ、協力してくれた方々の記録でもあります。ふくてつくも第123回目として、しっかりと記録に残っております。

また、自らもガンを乗り越えた一人の女性が、かつて阪神淡路大震災の被災者でもあり、強い思いで砂川恵理歌による震災追悼コンサート

を一から企画、最後には神戸市東灘区や他のアーティスト達の協力により、本年1月17日、御影にて実現しました。スタッフとして参加しま

したが、六甲山に響き渡る彼女の歌声に、涙する観客も多く、素晴らしいコンサートでした。来年も既に決まっています。

その他にも、FM局主催で今年一押しアーティストを集めたライブ出演や、若い層に向けた献血キャンペーンイベントに参加するなど、どんどん活躍の場を拡げつつあります。

普段は沖縄らしい天然で素朴な彼女。しかしいざステージに立つとその小柄で華奢な体からあふれ出る力強い歌声。そして介護職の経験もあり自然とこぼれる優しい言葉。きっとこれからも多くの人々を癒し続けてくれることでしょう。

佐久川 尚士

砂川恵理歌さんからのたより

砂川恵理歌という

ひとりの沖縄のネエネエが

「一生歌い続けたい」と

惚れ込んだ『一粒の種』という歌との出逢いでSmile Seed Projectという歌を届ける旅にできました。

歌の不思議な力を一番近くで体感しています。

今まさに病と闘う方が、

「この歌に出会えて抗がん剤の苦しい治療でも支えになっています。」と話してくれたり、人生の最期の時にこの歌を口ずさんでいたと家族がそっと打ち明けてくれたり。

歌の橋渡しという歌手の立場で私が貰うものがいっぱいあって、歌手としての幸せを毎日毎回感じる日々です。

ふくてつくの皆さんとの出逢いもそう。

家族のように笑顔で迎えて下さった皆さんと「ただいまー」と言って再会できるのを楽しみにしています。



2009年12月学習会ライブの風景



ふくてつく さんへ
SSP in 大塚123
いっぱいのお愛をありがとう
これからも応援ゆたくお願いします

すなわち えりか
2009.12.5.
あなたの大切な方へ

ホームページ奮闘記

昨年の6月に新しいホームページの作成を提案したところ、早々に作ることを任されました。「これは困った」と後悔しながら、所詮好きな分野なので、走り始めました。まず、どんなソフトで作るかを決めなくてはなりません。作ったことはあったのですが、本格的な物ではありません。誰でもが解るソフトでプロ並みのホームページが出来るソフト、試行錯誤の結果「ラピッドウェーヴァー」というアメリカのソフトの日本語版に決めました。(MACコンピュータの専用ソフト)

このソフトが非常にすばらしく、ホームページ作成のおもしろさのめり込んでいきました。

さて次は「レンタルサーバ」(ホームページを公開するための場所)の決定です。これがまた難関です。費用、信頼性、スピード。色々な評価を参照し、どうにか希望に叶った所を探し当てました。ばんざい!!

しかしこれからが大変でした。おもしろく、印象に残り、わかりやすく、十分にアピール出来るものが求められます。ここでもまた、試行錯誤です。初めて着手してから4ヶ月、やつと納得のいくホームページ

ページの完成です。

私自身、あまりボランティアに関わることはまだありません。しかしふくてつくの会員の皆さんのバックアップがこのホームページで出来るのであれば、それもまた必要とされる事なのかもしれません。

ホームページを作るにおいて、色々な方とお話が出来、人の繋がりのすばらしさを実感する事が出来ました。

会員、またホームページを見ていただいた皆様、遠慮なくご意見をいただければ、もっとすばらしいホームページが出来る物と信じております。

菊田 保志

2010年 定例会・学習会

1月9日(土)

大阪市社会福祉センター
学習会 あおば仮設ホーム
講師 中北 清

2月6日(土)

大阪市社会福祉センター
学習会 高齢者の生活機能と生活環境
講師 山田 隆人

3月6日(土)

ATCII 階エイジレスセンター
学習会 高齢者を狙った悪質商法と対処法
講師 平城 有美子

4月3日(土)

ATCII 階エイジレスセンター
学習会 悪質商法の被害にあわないために
講師 大槻 利花

5月1日(土)

大阪NPOプラザ
学習会 市民社会組織を学ぶ
講師 山田 裕子

6月5日(土)

大阪市社会福祉センター
学習会 高齢者虐待とは何か
講師 末原 知子

風に吹かれて

アユ漁の解禁が始まった。この時期になるとソワソワとして落ち着かなかつたものである。



アユはサケ科の魚で、河で生まれ、海にくだり、海で育ち、生まれ故郷の河にもどってくる。ところが氷河期に河が凍って、海に戻れなくなつて、つまり陸封されてしまったのだ。

その習性が残り、現在でも、晩秋に河で孵化した稚魚が海にくだり、河口付近の海で冬を過ごし、春になると生まれ故郷の河に遡上してくる。

海や河口付近では、動物プランクトンや水性昆虫をエサにしているが、上流に至ると、岩に生えるコケを食べて成長する。

そのうち、自分の縄張りを

持つようになり、他のアユが自分の縄張りに近づくと相手に体当たりをして追い払う。

この習性を利用するのがアユの友釣りである。

しかし、最近では、河川の環境の悪化により、天然アユの遡上が激減し、養殖したアユを放流するので、縄張り意識の弱いアユが多くアユの友釣りも大変難しくなつてきている。

そのため、アユ釣りの道具が発展し、軽くて感度の良い竿(高価なものは、数十万円もする)や、アユを泳がせるテグスも細くて、強いのが要求され金属性のテグスまでが出現している。

闘争心をなくして追わないアユ、解禁日にドツと押し寄せる釣り客、河川の汚れ、その他の理由で最近では河から遠ざかつている。

ただ、この文章を書いている今も、目を閉じると、人っ子一人いない清流に向かってアユ竿を立てている自分の姿が脳裏に浮かんでくる。

杉浦史郎

理事長の一言

ふくてつく会報が、今号より内容を一新し生まれ変わりました。

会の活動やイベントの紹介をメインに、会員の方、そしてこの会報を手に入れた方々にも、楽しく読んで頂ける会報を目指し、写真を交えて構成しました。

本会は、「福祉と住環境を考える会」として発足し、今日まで多岐にわたる活動を行って来ました。

これまでの活動についてはHPにてオープンして見ますので一度のぞいて見て下さい。

そして、興味をお持ちになった方は、是非一度、月に一度開催している定例会に遊びに来て頂き、活動をしている会員の、生の声を聞いて下さい。

この仲間達と一緒に考え、笑い、悩み、生きがいになる様な活動をしましょう。

ふくてつく理事長

小川忠雄